音楽科学習指導案

日　時　令和８年２月 19 日（木）
第５校時　13:25～14:10
学校名　豊島区立池袋本町小学校
対　象　第２学年２組　31 名
会　場　２階音楽室
授業者　教諭　　平川 瑞姫

１　題材名

音のかさなりをききあってえんそうしよう

２　題材の目標

⑴　「こぐまの二月」の曲想と音色や旋律、音の重なりとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて旋律楽器を演奏する技能や、互いの楽器の音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。

⑵　音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつ。

⑶　楽器の音色や音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組む。

３　題材の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①知　曲想と音色、旋律との関わりについて気付く。 ②知技　曲想と音の重なりとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付けている。 ③技　思いに合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。	思①　音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。	態①　楽器の音色や音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

＊各観点において記録に残す場面の順に番号を付しているが、「知識・技能」の評価規準においては、「知識・技能」の観点を通して番号を付し、その後に知、技、知技の区分を表記している。

4　指導観

⑴　題材観

本題材は、主な旋律と副次的な旋律、低音のパートが重なるよさや面白さを感じ取りながら、曲想や歌詞の内容に合った演奏の仕方を考え、互いの楽器の音を聴き合って演奏することをねらいとしている。

本題材は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第２章　第６節

〔第１学年及び第２学年〕２内容　A表現

⑵　器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。

イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について気付くこと。

(ｱ)　曲想と音楽の構造との関わり

(ｲ)　楽器の音色と演奏の仕方との関わり

ウ　思いに合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ)　範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能

(ｲ)　音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ｳ)　互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

を受けて設定した。

また、〔共通事項〕は、⑴ア「音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きを生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。」との関係を図る。⑴アとの関連を図るに当たり、「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」２⑻に示された「音楽を形づくっている要素」は「音色、旋律、音の重なり」を扱う。「音色」については、各楽器の音色を聴き比べ、違いに気付き、息の入れ方やマレットの打ち方、音の長さなどに気を付けて演奏できるようにすることで、楽器がもつ音色のよさに気付けるようにする。「旋律」については、リズム打ちや階名唱をすることで、旋律が２小節ごとのまとまりになっていることや順次進行が多いことを捉え、旋律の動きやフレーズの終わりの休符に気を付けて演奏できるようにする。「音の重なり」については、①主な旋律と低音のパート、②主な旋律と副次的な旋律、③副次的な旋律と低音のパートのように、２つのパートを取り出して聴いたり、３つのパートを合わせて聴いたり演奏したりすることで、少しずつ音の重なりを捉えられるようにする。

⑵　児童観

第２学年児童は、入学時より授業者が担当している。児童は音楽の学習全般に興味をもって取り組み、様々な活動に意欲的である。今年度の器楽の学習では、「山のポルカ」（芙龍明子　日本語詞／チェコ民謡／飯沼信義　編曲）で、鍵盤ハーモニカの運指のポジション移動や、八分音符、八分休符のリズムに気を付けて合奏をした。さらに、「こぎつね」（勝承夫　日本語詞／ドイツ民謡）では、１～３番のそれぞれの歌詞の内容に合わせて、鍵盤ハーモニカの強弱や息づかい、音色を工夫して演奏した。

合奏の学習について、第２学年 92 名を対象に２学期終わりにアンケートを行った。「合奏の学習が好きか」という設問に「はい」と回答した児童が 67.6%、「どちらでもない」と回答した児童が 22.5%、「いいえ」と回答した児童が 9.9%であった。また、「合奏をするときに気を付けているこ

とは何か」という自由記述の設問に対しては、「間違えないようにする」といった回答が最も多かった。他に、「みんなとずれないようにする」「指使いに気を付ける」といった、正確に演奏することや周囲と合わせることに意識が向いていることが分かった。一方で、音色や強弱、曲の感じといった表現に関する記述は少なく、音の重なりが生み出す雰囲気や曲想を味わいながら演奏する経験は十分とは言えないことが考えられた。

本題材において、児童は初めて、主な旋律に加えて副次的な旋律と低音のパートの３つを重ねる経験をする。本題材では、主な旋律、副次的な旋律、低音のパートを段階的に演奏し、音を重ねる活動を通して、音楽の構造と曲想との関わりに気付くことを大切にする。また、歌詞の理解を共有することで、児童が曲に親しみを感じ、楽しんで思いに合った表現に取り組めるようにする。さらに、演奏する際には音色に着目することで、児童が歌詞から思い描いた情景や気持ちを音で表そうとする意識を高め、自分なりの思いをもって演奏できるように指導していく。

⑶　教材観

器楽教材「こぐまの二月」（平井多美子　作詞／市川都志春　作曲）

本楽曲は、ハ長調４分の４拍子、前半４小節後半４小節の８小節からなる一部形式となっている。旋律は２小節ごとのまとまりになっており、ほとんどが順次進行で構成されている。今回の学習では、主な旋律は鍵盤ハーモニカ、副次的な旋律は卓上木琴、低音楽器は電子キーボードを使用して演奏し、音色や旋律の違う３つのパートが重なるよさや面白さを感じ取れるようにする。

５　年間指導計画における位置付け

第１学年では、「みんなであわせてえんそうしよう」の題材で、初めて主な旋律とリズム伴奏が重なる合奏を経験し、互いの音を聴き合いながら重ねて演奏する学習をした。

それを踏まえて本題材では、主な旋律、副次的な旋律、低音の３つのパートが重なる面白さを感じ取りながら、互いの楽器の音を聴いて演奏することをねらいとしている。

第１学年　３学期	第２学年　３学期	第３学年　３学期
○　みんなであわせてえんそうしよう（５時間） 〔主な教材〕 「こいぬのマーチ」（久野静夫作詞／作曲者不明／黒澤吉徳編曲）	○　音のかさなりをききあってえんそうしよう（本題材・６時間） 〔主な教材〕 「こぐまの二月」（平井多美子作詞／市川都志春　作曲）	○　思いを音楽で表そう（５時間） 〔主な教材〕 「エーデルワイス」（リチャード　ロジャーズ　作曲／佐井孝彰　編曲）
互いの楽器の音を聴き合いながら、主な旋律とリズム伴奏を重ねて演奏する。	互いの楽器の音を聴き合いながら、３つのパートが重なる面白さを感じ取りながら演奏する。	旋律の特徴やフレーズを生かした演奏の工夫を考え、いろいろな楽器の音の重なりを楽しみながら演奏する。

６　題材の指導計画と評価計画（全６時間）

時	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	知・技	思	態
第１時	◎　主な旋律を聴いたり演奏したりしながら、曲想と音色や旋律との関わりに気付く。			
	○　主な旋律を歌詞唱や階名唱、リズム打ちをして、曲想や旋律の特徴に気付く。 ・　デジタル教科書の範唱に合わせて主な旋律を歌詞唱し､感じたことを伝え合う。 ・　楽譜を指で追いながら階名唱をし、順次進行が多いことや６小節目に跳躍する音があることに気付く。 ・　階名唱をしながらリズム打ちをし、前半と後半で同じリズムが２回繰り返されていることに気付く。 ・　全体で運指や手のポジションの移動を確認し、鍵盤ハーモニカで演奏する。			
第２時	◎　副次的な旋律を聴いたり演奏したりしながら、曲想と音色や旋律との関わりに気付く。			
	○　副次的な旋律を階名唱、リズム打ちをして、曲想や旋律の特徴に気付く。 ・　デジタル教科書の範奏を聴いたり、楽譜を指で追ったりしながら階名唱をし、感じたことや主な旋律との違いなどの気付いたことを伝え合う。 ・　階名唱をしながらリズム打ちをし、同じリズムが３回繰り返されていることに気付く。 ・　全体でマレットの持ち方や打ち方を確認し、３人１グループになり木琴で演奏する。			
第３時	◎　低音のパートを聴いたり演奏したりしながら、曲想と音色や旋律との関わりに気付く。			
	○　低音のパートの旋律を階名唱､リズム打ちをして､曲想や旋律の特徴に気付く。 ・　デジタル教科書の範奏を聴き、感じたことや主な旋律や副次的な旋律との違いなどの気付いたことを伝え合う。 ・　楽譜を指で追いながら階名唱をし、主な旋律や副次的な旋律との違いなどの気付いたことを伝え合う。 ・　全体で運指を確認し、３人１グループになりキーボードで演奏する。 ・　第１時からの学習をふり返り、演奏したいパート（楽器）を選ぶ。	①知発言・記述		
第４時	◎　音色や旋律、音の重なりに気を付けて、それぞれのパートを演奏する。			
	○　それぞれのパートの重なりを感じ取りながら演奏する。 ・　デジタル教科書の範奏を、音の重なりに気を付けて聴く。 ・　３種類のパターンのパートの組み合わせ（①主な旋律と低音のパート、②主な旋律と副次的な旋律、③副次的な旋律と低音のパート）を聴き比べ、感じたことを伝え合う。 ・　３つのパートを重ねて聴き、１つや２つのパートの演奏との響きの違いについて気付いたことを伝え合う。 ・　個人で演奏したり同じパートの友達同士で集まったりして、音色に気を付けて	②知技発言・		

	演奏する。 ・　学級全体で重ねて演奏する。	記述・演奏聴取		
第５時（本時）	◎　楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付き、どのように演奏するかについて思いをもつ。			
	○　「こぐまの二月」に合う楽器の音色を試しながら考え、どのように演奏するかについて思いをもつ。 ・　学級全体を３つのグループに分けて演奏し、互いに聴き合う。 ・　互いの演奏を聴いて、気付いたことや感じたことを全体で共有する。 ・　１番の歌詞やアレンジした歌詞を読み、表されている様子を全体で考え、共有する。 ・　歌詞の様子を表すための、音色やアーティキュレーションを個人で試しながら考える。 ・　歌詞に合わせて考えた表現の工夫を発表する。 ・　同じグループの違う楽器の友達同士３～４人程度の小グループになり、２番の歌詞が表す様子に合う楽器の演奏の仕方を考え、ワークシートに記入する。 ・　いくつかの小グループで考えた２番の歌詞が表す様子や演奏の仕方を、全体で共有する。 ・　考えた演奏の仕方に気を付けて、全体で演奏する。		思 ① 発言・記述	
第６時	◎　曲想に合う表現の仕方を工夫し、互いの楽器の音を聴き合いながら演奏する。			
	○　曲想に合う表現の仕方について思いをもち、音を合わせて演奏する。 ・　３つのパートを重ねてクラス全員で演奏し、録画する。 ・　録画した演奏を鑑賞し、気付いたことや感じたことを全体で共有する。 ・　前時に考えた、演奏の仕方を思い出して、同じ楽器や違う楽器の友達と合わせて演奏する。 ・　学級全体で重ねて演奏し、再び録画する。 ・　自分の演奏を観たり題材全体を振り返ったりして、学んだことをワークシートに記入する。	③ 技 演奏聴取		態 ① 観察・発言・記述

7　指導に当たって

第３期班テーマ：指導と評価を一体化する授業づくり

指導と評価を一体化する授業づくりとは、題材目標の達成を目指して形成的評価を重視し、授業づくりに生かすことである。具体的には、①指導のねらいを明確にすること、②予想される児童の反応から指導上の留意点を丁寧に検討すること、③その上で実際の授業における児童の反応や様子を手がかりに柔軟な展開をすることである。これを踏まえ、授業力の６要素から以下の視点をもって授業づくりを行った。

⑴　指導技術（授業展開）の視点から

ア　どのように演奏するか思いをもつための手立て

思いをもつためのよりどころとして、楽曲の歌詞の内容を活用する。歌詞に表されたこぐまの様子や気持ちを想像することで、どのような音で表したいのかを児童自身が考えられるようにする。また、教師が１番の歌詞と対称的な内容の歌詞を用意し、歌詞の違いによる演奏の違いを体感し、２番の歌詞の内容に合わせてどのように演奏するか思いをもてるようにする。

イ　音の重なりを実感しながら、演奏の工夫を考えるための手立て

異なる楽器を担当する児童同士で小グループを構成し、音を出し合いながら考えを共有することで、それぞれの楽器の音色の特徴や重なった時の聞こえ方の違いを生かして、協働的に演奏の工夫を考えられるようにする。

8　本時（全６時間中の第５時）

⑴　本時の目標

「こぐまの二月」の楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付き、どのように演奏するかについて思いをもつ。

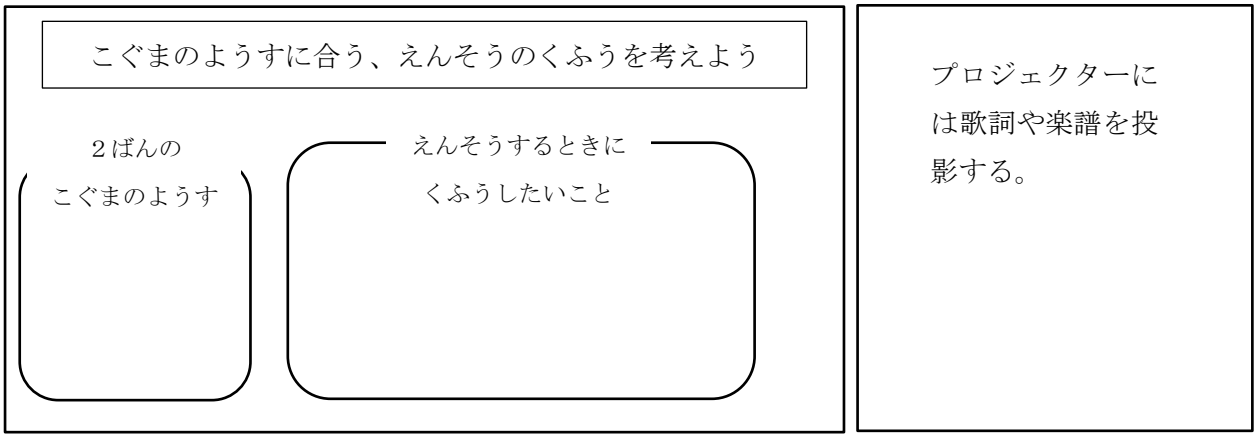
⑵　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 ３ 分	・　前時の学習を振り返り、歌詞唱をしたり、各パートの階名唱をしたりする。 ・　本時のめあてを確認する。 こぐまのようすに合わせて、どんなえんそうにしたいか考えよう	・　前時までの学習内容をまとめた拡大楽譜を掲示する。	
展開 39 分	○　「こぐまの二月」に合う楽器の音色を試しながら考え、どのように演奏するかについて思いをもつ。 ・　学級全体を３つのグループに分けて演奏し、互いに聴き合う。 ・　互いの演奏を聴いて、気付いたことや感じたことを全体で共有する。	・　各グループのパートの人数に偏りが出ないように教師が事前にグルーピングをする。 ・　それぞれグループの演奏からどのようなこぐま	

	〔予想される児童の発言〕 ・音がバラバラに聞こえる。 ・こぐまが元気な感じがする。 ・こぐまが悲しい気持ちにも聞こえる。	の様子が伝わってくるか考えるよう投げかける。	
	・　１番の歌詞やアレンジした歌詞を読み、表されている様子を全体で考え、共有する。 《１番の歌詞》 こぐまのぷうさん　あなから出たが お山は吹雪　まだ春遠い 《歌詞をアレンジする部分》 ・こねこ ・お山はあつい ・もう夏近い	・　この後のグループ活動のチュートリアルとして、元の歌詞と対称的な内容にアレンジした歌詞を用意し、歌詞の内容と表現の方法を比較しながら結び付けられるようにする。	
	・　歌詞の様子を表すための、音色やアーティキュレーションを個人で試しながら考える。 〔予想される児童の発言〕 ・こぐまは大きくて元気な感じ、こねこは小さくてふんわりした感じの音にしたい。 ・吹雪は寒いから少し短い音、暑いときはぐでんとするから音を長めにしたい。	・　演奏の仕方が思いつかない児童には、教師が音色やアーティキュレーションを変えた比較演奏をして聴かせ、どちらの演奏が合っていると感じるか、選べるようにする。	
	・　歌詞に合わせて考えた表現の工夫を発表する。	・　児童が発表した表現の工夫を教師が実演し、曲想の違いを学級全体で感じ取れるようにする。	
	・　同じグループで異なる楽器を担当する児童３～４人程度の小グループになり、２番の歌詞が表す様子に合う楽器の演奏の仕方を考え、ワークシートに記入する。 ・　いくつかの小グループで考えた２番の歌詞が表す様子や演奏の仕方を、全体で共有する。 〔予想される児童の発言〕 ・「仕方がなくて」はしょんぼりした感じの音色で演奏したい。 ・「夢見て寝たよ」は、寝ている様子を表すために優しい音色で演奏したい。	・　２番の歌詞の内容を全体で確認し、どのように演奏したいか児童一人一人が考えるよう促す。 ・　歌詞から想像したこぐまの様子と、演奏の仕方との結び付きに着目できているグループを取り上げ、価値付ける。	思①　音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲

			想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。（発言・記述）
まとめ３分	・　考えた演奏の仕方に気を付けて、全体で演奏する。	・　１番は全体で考え、２番はそれぞれが考えた工夫で演奏するよう声掛けをする。	

(3) 板書計画



(4) 授業観察の視点

ア　歌詞をよりどころとして演奏の仕方を工夫するために、あえて歌詞を替えて表現を試す活動を学級全体で行ったことは、児童一人一人が歌詞の内容と演奏の工夫を結び付けて考え、思いをもつことに有効であったか。

イ　異なる楽器を担当する児童で小グループを構成したことは、音の重なりを実感しながら協働的に演奏の工夫を考えるために有効であったか。